

監修

萩原 佑亮 東京都立小児総合医療センター救命救急科 医長

### 答え①：床配線の有無

電源コードの床配線はさまざまな事故につながります。赤ちゃんの場合、コードが首に巻きついたり、伝い歩きでコードにつまずいたりして、つながっている機器が頭上に落下することも考えられます。電気ケトルでは、熱湯がふってきます。また、コードをなめる、かじるといった可能性もありますので、配線を見えないようにまとめたり、カバーをしたりするとよいですね。

### 答え②：コンセントカバーの有無

コンセントの穴にヘアピン、鍵など金属製のものを差し込み、感電や火傷をすることがあります。特に肌が濡れていると、体に電気が通りやすくなるため、汗やよだれで濡れた手でコンセントやプラグに触ることはとても危険です。コンセントには、いたずら防止用のコンセントカバー（外れにくく、子どもの興味を引かない形状や色のもの）を取り付けるとよいでしょう。

### 答え③：テーブル上の熱い飲み物の有無

子どもの家庭内火傷は、台所だけでなく、ほかの部屋にも危険なものがたくさんあります。湯気や蒸気の出るものは子どもの興味を引きやすく、テーブルの上であっても味噌汁・スープなどの食べ物やお茶・コーヒーなどの飲み物では注意が必要です。子どもの皮膚は大人に比べて薄いため、低い温度でも深い火傷になりやすくなります。子どもの目線で家庭内に危ないものがないかどうかチェックし、未然に防ぐ対策を講じられるとよいですね。万が一、火傷をしてしまったら、水道水やシャワーなどで衣服の上から流水で5～20分間冷やし、家庭の応急処置で対応できる範囲を超えていたら、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。

### 答え④：テーブル上のお薬の有無

子どもの誤飲事故の多い原因のひとつに「医薬品・医薬部外品」があげられます。子どもは身近にあるものを手に取り、何でも口に入れてしまうことがあり、包装シートごとかじって錠剤を口に入れることや、大人が飲んでいるのを見てお菓子と間違えて大量に飲んでしまう可能性があります。自宅だけでなく、特に帰省時には注意が必要で、普段注意していない場所では事故が起こりやすくなります。お薬は、錠剤のほかシロップや粉薬、塗り薬（チューブや軟膏）など剤形にかかわらず、子どもの見えないところで保管するようにしましょう。万が一、子どもが医薬品を誤飲した場合は、子どもの状態や薬の名称、飲んだ量を確認した上で、直ちに専門の相談機関に連絡し、必要に応じて医療機関を受診しましょう。

### 答え⑤：Tシャツの袖の長さ

高田製薬のキャラクター「タカちゃん」が着ているTシャツの長さ（半袖と長袖）の違いです。

